


IIAS NEWSLETTER

International Institute for Advanced Studies

June 2004

38

 財団法人
国際高等研究所

<http://www.ias.or.jp>

index

理事会・評議員会を開催
2004.3.29

国際高等研究所理事会・評議員会を開催
新理事長に立石義雄・オムロン株式会社社会長が就任

新規研究プロジェクトとして
4研究課題がスタート

- 芸術と社会—芸術表現における伝統と革新の問題—
- ダイナミクスからみた生命的システムの進化と意義—
—構造と機能の固定化と変容に関する数理的観点—
- 隙間—自然、人間、社会の現象学—
- 学習の生物学

2004年度フェロー9名を招へい

2004年度特別研究員2名を採用

最近の出版物

最近の動き(2004年3月~5月)

今後の予定(2004年6月~)

今後の公開講演会予定

国際高等研究所理事会・評議員会を開催 新理事長に立石義雄・オムロン株式会社社会長が就任

3月29日(月)に第52回理事会・第46回評議員会を開催、2004年度事業計画及び収支予算、理事・監事・評議員の改選、役員人事等につき審議し、原案どおり決定した。

[1] 2004年度事業計画の概要

- (1) 研究プロジェクトの推進
- (2) オンライン・オンデマンド出版等、情報出版事業の充実と研究成果の公表
- (3) 専門的人材育成事業 - スペシャリスト・コースの展開
コンピューテーショナル・マテリアルズ・デザインに関するワークショップの開催や、特別研究員制度を活用し知的財産関係の専門家の育成を図る。
- (4) 「学者村」の充実

[2] 2004年度収支予算

当期収入合計は2億295万円、支出合計は2億7566

万円、差引7271万円の赤字予算となった。

[3] 理事・監事・評議員の改選

経済団体や研究機関の代表の交代等に伴う理事及び評議員の交代があった。

[4] 役員人事

新宮康男理事長が退任、立石義雄副理事長が理事長に就任した。副理事長には、西室泰三・日本経済団体連合会副会長(留任)のほか、南谷昌二郎・関西経済連合会副会長及び矢嶋英敏・島津製作所会長の両氏が新しく就任した。

[5] 顧問の委嘱等

理事長を退任した新宮康男氏を顧問に委嘱した。その他、「役員報酬規程」、「嘱託規程」及び「職務権限及び決裁規程」を制定し、法人運営体制の整備を図った。



立石義雄:
オムロン株式会社社会長

2004年度 高等研 新規研究プロジェクト 4課題が新たにスタート

次の4研究プロジェクトが課題研究として発足（研究会メンバー等詳細は、ホームページ参照）

「芸術と社会—芸術表現における伝統と革新の問題—」

研究代表者

佐々木正子

（京都造形芸術大学
大学院客員教授）



芸術の発展には、伝統と革新の問題が有り、この二つの動きはどのようなときに現れ、その時代や社会においてどのようにとらえられてきたのか、芸術の本質と時代、社会思想との関わりを解明する。2004年度は四つの分科会・能楽研究会、日本絵画研究会、茶道文化研究会、伝統工芸研究会の四つの芸術分野において、まず、何が伝統的表現といえるのかという点と、新しい表現が生まれた時点における社会の認識との関係を明確にする。

「隙間—自然、人間、社会の現象学—」

研究代表者

鳥海光弘

（東京大学教授）



自然、人間、社会に現れる隙間というポスを、個別的なリアリティが主題化する場として捉え、そこに科学の光をあてようとする。隙間の観測、観察、省察は新たな現象学を生み出し、隙間の構造学或いは運動学は、新たな哲学や数理の課題となるはずである。2004年度は、人文社会学から自然科学にわたる諸分野で、隙間が持つ意味と、その科学的な課題について議論を行う。多様性が創出される場として隙間を捉えようとする研究の基本方針について検討する。

「ダイナミクスからみた生命的システムの進化と意義 —構造と機能の固定化と変容に関する数理的観点—」

研究代表者

津田一郎

（北海道大学教授）



生物進化を数理的な観点から捉え、進化研究への新しい切り口が与えられることをめざす。進化における構造と機能の関係をその固定化と変化の様式から探る。遺伝子のレベルに固定化される情報と、それより巨視的なシステムレベルに固定化される情報を区別して扱う。どういったシステムレベルにどのような情報が固定化され、変容していくのかを実験事実を踏まえながら理論的に研究する。この課程で、「動的にみる」という方法をも模索したい。2004年度は、生物進化の機構を系統的に捉えている実験家をコアメンバーに加え、理論の実証可能性について議論を深める。必要に応じ、ゲストスピーカーを招き、議論と質疑応答をする。

「学習の生物学」

研究代表者

星 元紀

（慶應義塾大学教授）



ヒトの生物学的理解には進化生物学的視点や比較生物学的視点を欠くことができず、学習の理解もその例外ではありえない。このような認識に基づき、第一に、進化生物学や比較神経行動学などの視点から様々な生物系における学習課程を討議する。第二に、脳科学や発達認知神経科学の視点から、われわれの脳における学習の生物学的機構に焦点を当てる。第三に、情報科学や情報工学を学習及び教育制度に応用が可能かどうか調査・研究する。最後に、これらを統合し、新たなより包括的な教育が確立できないか、さらには生涯を通じたより良い学習及び教育のための制度の構築方法を見いだせないか、検討する。

継続研究課題

「スキルの科学」

研究代表者:岩田一明 (大阪大学・神戸大学名誉教授)

「思考の脳内メカニズムに関する総合的検討」

研究代表者:波多野誼余夫 (放送大学教授)

「センサー論」

研究代表者:鷲田清一 (大阪大学理事・副学長)

「21世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題 - 人文社会科学からのアプローチ -」

研究代表者:木下富雄 (甲子園大学学長)

「共同研究の法モデル」

研究代表者:北川善太郎 (高等研副所長)

「量子情報の数理」

研究代表者:大矢雅則 (東京理科大学教授)

「分化全能性 - 普遍性と特異性 -」

研究代表者:原田宏 (筑波大学名誉教授)

「開発途上国と日本人長期政策アドバイザー」

研究代表者:橋本日出男 (大阪大学理事)

「災害観の文明論的考察」

研究代表者:小堀鐸二 (京都大学名誉教授)

「国際比較からみた日本社会における自己決定と合意形成」

研究代表者:田中成明 (京都大学理事・副学長)

「物質科学とシステムデザイン」特別研究

研究代表者:金森順次郎 (高等研所長)

2004年度 高等研フェロー招へい

毎年10名程度、国内外から優れた研究者を招へいし、個人の自由な発想に基づいた研究を行う事業で、2004年度は以下の9名が確定している。

足立 裕彦 (量子化学)

京都大学名誉教授

川北 稔 (西洋近代史)

大阪大学名誉教授・名古屋外国語大学教授

後藤 誠一 (応用物理学)

大阪大学名誉教授

沢田 康次 (情報物理学)

東北大学名誉教授・東北工業大学教授

中島 泉 (免疫学)

名古屋大学理事・副学長

西島 安則 (高分子化学)

京都大学名誉教授

藤村 靖 (音声言語学)

米国オハイオ州立大学名誉教授

吉田 忠 (科学史)

東北大学名誉教授

Peter H. Dederichs (物理学)

ドイツ原子力研究機構固体物理研究所主任研究員
アーヘン工科大学教授

2004年度 高等研特別研究員採用

優秀な若手研究者研究奨励金を支給し、研究指導者の下で高等研の研究プロジェクトに参画させ、研究者の育成を行う事業で、2004年度は下記の2名を採用した。

松井 章浩 立命館大学大学院法学研究科博士後期課程単位修得

中林 良純 京都大学大学院法学研究科博士後期課程在学中



松井 章浩



中林 良純

最近の高等研出版物

高等研報告書「情報生物学講義」シリーズ 松原謙一監修

0306 「相同配列の比較による構造 / 機能予測」 藤 博幸 定価 ¥630

0311 「KEGG / 代謝マップ」 金久 實 定価 ¥630

研究活動及び公開事業の状況

最近の動き 2004年3月～5月

開催月日	研究会内容	研究会代表者
3月4日	「ものづくりにおけるスキルの技術化の新機軸を探る」公開講演会	岩田一明
3月5日～7日	「思考の脳内メカニズム」国際ワークショップ	波多野誼余夫
3月6日	「21世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題 - 人文社会科学からのアプローチ」研究会	木下富雄
3月9日～13日	「コンピューテーショナル・マテリアルズ・デザイン」第4回ワークショップ	赤井正純
3月13日	「東西の恋愛文化」フォーラム	青木生子
3月23日	「大学における知的財産と産学連携」共同研究の法モデル研究会	北川善太郎
3月26日～27日	「国際比較から見た自己決定と合意形成」研究会	田中成明
3月27日	「センサー論」研究会	鷲田清一
4月5日	「物質科学とシステムデザイン」幹事会	金森順次郎
4月6日～7日	「科学と技術のはざま」フォーラム	伊藤、遠藤、新庄、本河の各フェロー
4月10日	「芸術と社会 - 芸術表現における伝統と革新の問題 - 」研究会	佐々木正子
4月17日	「スポーツ創製」研究会	新庄輝也
4月24日	「スキルの科学」研究会	岩田一明
5月7日～8日	「隙間 - 自然、人間、社会の現象学 - 」研究会	鳥海光弘
5月8日	「身体知と文化 - 教育における身体知 - 」研究会	杉田繁治
5月15日	「東南海・南海地震と文化遺産」公開講演会	土岐憲三
5月16、22、30日	「芸術と社会 - 芸術表現における伝統と革新の問題 - 」研究会	佐々木正子
5月18日～19日	「ダイナミクスからみた生命的システムの進化と意義 構造と機能の固定化と変容に関する数理的観点 - 」研究会	津田一郎
5月21日	「共同研究の法モデル」研究会	北川善太郎
5月22日	「スキルの科学」研究会	岩田一明
5月24日～28日	「ナノスピントロニクスデザインと創製に関する国際会議」	笠井秀明

今後の予定 2004年6月～

開催月日	研究会内容	研究会代表者
6月5日	「開発途上国と日本人長期政策アドバイザー」研究会	橋本日出男
6月5日	「21世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題 - 人文社会科学からのアプローチ」研究会	木下富雄
6月11日～12日	「思考の脳内メカニズムに関する総合的検討」研究会・企画委員会	波多野誼余夫
6月12日	「スポーツ創製」研究会	新庄輝也
6月13、19、27日、7月18日	「芸術と社会 - 芸術表現における伝統と革新の問題 - 」研究会	佐々木正子
6月24日	「物質科学とシステムデザイン」システム科学分科会	金森順次郎・仲田周次
6月25日～26日	「物質科学とシステムデザイン」合同分科会	金森順次郎・吉田博・齋藤軍治
6月26日	「分化全能性 - 普遍性と特異性 - 」研究会	原田宏

今後の公開講演会予定

開催月日	講演会内容	講師
6月19日	「けいはんな・茶会と文化学術講演会」 茶会 (9:30～15:30) 講演会:「茶と絵画 - 日本の美意識 - 」 (13:30～15:00)	佐々木正子

編集・発行者	財団法人 国際高等研究所	〒619-0225 京都府相楽郡木津町木津川台9丁目3番地 TEL : 0774-73-4001 FAX : 0774-73-4005 E-mail : editor@iias.or.jp http://www.iias.or.jp
--------	--------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------